



地域連携で挑む 新時代の感染症対策

～大阪市北区医師会における

オープンな広報活動～



大阪市北区医師会

1 / 6

はじめに

2018年9月8日に開催された第1回北区医師会感染症対策委員会からはじまりました

- 大阪市北区の7病院と感染症に関するネットワークを構築しました。
- AMR対策を普及するため抗菌薬（抗生物質及び合成抗菌剤を含む）の適正使用に関する啓発ポスターを作成しました。
- 大阪市北区医師会のホームページでの感染症に関する情報のアップデートをタイムリーにしていきたいと考え、事務・広報会議で感染症対策委員会だよりを協議し、会員への周知だけでなく地域への広報活動に取り組みはじめました。

「風邪で抗生物質を飲む」のは百害あって一利なし

何の効果もないだけでなく、副作用や抗生物質が効かない菌を保有するリスクが増加します。
「風邪で抗生物質を飲むとどうなるか」について以下のことが分かっています。

1. 抗生物質が効かない菌（耐性菌）が体内に発生する
抗生物質によって、善玉菌が死滅し、悪玉菌が増加します。

2. 何の効果もない
肺炎などを予防することはできません。
風邪の症状が早く良くなることはありません。

➡ 風邪の原因はウイルスであり、
総面にしか効かない抗生物質は無効です

3. 副作用はほかにはできない
救急外来には、抗生物質による副作用で来院する人がたくさんいます。
抗生物質による副作用で最も多いものは下痢です。
抗生物質によってアカアブシカシカシカをおこすこともあります。
アレルギーによるじんましん（蕁麻疹）も多いです。



もっと詳しく知りたい人は <http://kita-med.jp/kansensyou/>

当診療所では、風邪の患者様に、原則として抗生物質を処方しません
大阪市北区医師会感染症対策委員会
大阪市北区感染管理ネットワーク

抗生物質の適正使用に関する啓発ポスター

2 / 6

ホームページでの情報発信

- 地域に沿ったローカルな感染症の流行状況
(全国ニュースでは流れない情報)
- 錯綜する情報 (SNS) とは違う
地域の身近な専門医の知見
- ホームページによる情報共有のスピードアップ
- 感染症対策委員会だよりから見える透明性

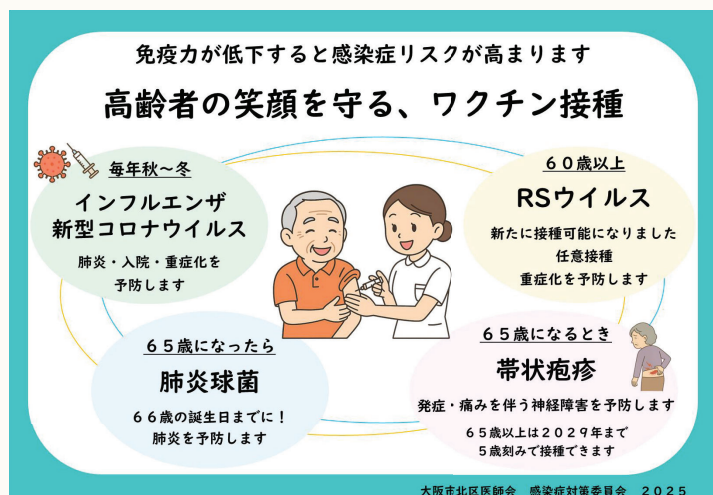


大阪市北区医師会HP 医学知識

3/6

予防接種の啓発～2025年 高齢者向けワクチン啓発リーフレットの作成～

- 高齢者に分かりやすく、かかりつけ医にとっても使いやすいリーフレットを作成
- 各医療機関へ配布し受付・待合室・診察室で活用



これからも笑顔で過ごすために、
ワクチンを打ちましょう。



带状疱疹

65歳になるとき

発症・痛みを伴う神経障害を予防します
(65歳以上は2029年まで5歳刻みで接種できます)

インフルエンザ 新型コロナウイルス

毎年秋～冬

肺炎・入院・重症化を予防します

肺炎球菌

65歳になったら

66歳の誕生日までに!
肺炎を予防します

RSウイルス

60歳以上

任意接種
重症化を予防します

新たに
接種可能
になりました!

大阪市北区医師会 感染症対策委員会 2025

4/6

広報活動 月1回事務・広報会議で運営

外部に向けての広報

- ホームページおよび携帯版ホームページの管理・運営
- 一般市民の方にも分かりやすい内容と構成の維持
- みんなで学ぶ健康法などイベントの紹介や、医学知識、医療機関情報などを提供
- この他にも一般市民の方にとって興味深い情報発信を検討中

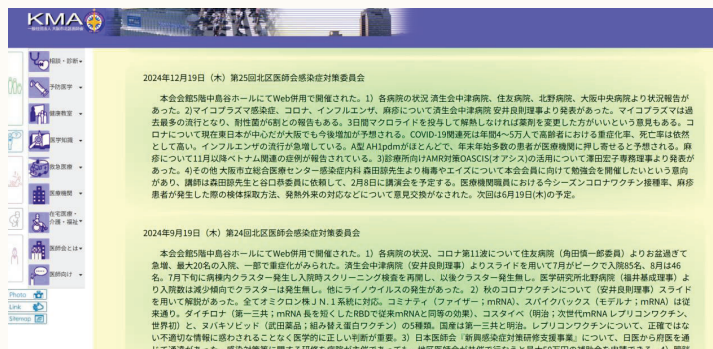
内部に向けての広報

- 月に一回機関紙である大阪市北区医師会ニュースの編集・発行（理事会の協議・報告の内容など）
- 病院－診療所間や診療所同士の連携のための情報ツールとして使用可能な会員名簿を会員に公開
- 北区在宅医療・介護連携相談支援室「通称：北サポ」を掲載
- 北区在宅医療連携拠点「通称：北ポジ」を掲載
- 従来からの紙媒体に加えて、2012年会誌146号より『会誌セレクト』として一部を電子版(PDF形式)で掲載

5/6

感染症対策委員会だよりの活用

- 大阪市北区医師会は感染症対策委員会を設置し、地域の医師が地域支援病院の医師と連携し、定期的に集まり最新の感染症状況について議論をしています。感染症対策委員会だよりを通じて、地域で議論を交わし連携していることをオープンにすることで活動を可視化しています
- 透明性の高い活動は信頼と安心感が生まれ地域全体で公衆衛生が高まると考えています
- 外国人の流入が多い大阪市北区では新興感染症への対策は今後も必要となっています



大阪市北区医師会HP 感染症対策委員会だよりの活用

6/6